

健康

苦痛続く治療継続に疑問

母ががんになり、肺や骨に転移しています。抗がん剤治療がとて  
も長く続いており、副作用がつりまわります。このまま楽しみがな  
く、抗がん剤治療を続けることが母のためになるのか疑問に思っています。どう  
すればいいですか。



武知 浩和  
徳島大学病院がん診療  
連携センター助教

回答

家族の治  
療には心配

が多いと思います。がん  
が他の臓器や離れた部位  
のリンパ節に転移した場  
合の多くは、治療の副作  
用を制御しながら長期的  
に治療することが目標に  
なります。残念ながら治  
癒に至らないケースもあ  
ります。従ってこの場  
合、患者を必要以上に頑  
張らせてはいけません。  
最近アドバンス・ケア  
・プランニング(ACP  
P)の考え方が普及し、  
患者の希望・意思に沿う  
治療計画の重要性が認め  
られています。特に難治  
性がん患者には早期実践  
が理想です。

ポイントは①主治医が  
患者家族から信用を得る  
②患者に正しく病状・治  
療目標を理解してもらう

患者の意思に沿う計画を



アドバンス・ケア・プランニング



③適切な緩和ケア・支援  
を多職種で行う④患者の  
希望・意思に沿う治療な  
どです。  
私は決して抗がん剤否  
定派ではありません。可  
能な限り積極的な治療を

勧めます。ただ、生活の  
質とのバランスが重要で  
す。  
ACPの実践が遅れる  
のは望ましくありません。  
私はこれまでの経験  
から痛感しています。  
真実は取り扱い注意。  
悪い知らせは患者にとっ  
てストレスになります。  
医師の伝え方は非常に大  
切です。医師はより良い  
対応をすべく工夫を重ね  
ています。  
発生の可能性がある痛  
みなど症状に対する適切  
な緩和ケアのための技術

まずは患者や家族の気  
持ちは正直に主治医にぶ  
つけてみてください。全  
てはそこから始まりま  
す。苦痛に耐え続け無計  
画に治療を受ける時代は  
終わりました。休みなが  
ら治療し、抗がん剤減量  
による副作用軽減も選択  
肢になります。どんな状  
況でも緩和ケアを受ける  
権利は全ての患者にあり  
ます。緩和ケアを受ける  
ことも立派な治療です。  
積極治療だけが治療では  
ありません。困難でもや  
れることはたくさんあり  
ます。患者は人生を満足  
できるものにしてほしい  
です。患者の満足は家族  
にとって生きる光だと信  
じます。

(第4土曜掲載)

主治医に気持ち伝える

がんに関する質問は  
徳島がん対策センター  
〈電088(634)6442〉  
(平日午前  
8時半から  
午後5時  
まで)